

平成 30 年度 第 2 回 情報共有基盤 利用促進ワーキンググループ  
議事要旨

日時：2018 年 11 月 20 日(火) 10:00-12:00

場所：経済産業省 別館 2 階 234 会議室

出席者：

【主査】

川島 宏一 主査

【委員（50 音順）】

筏井 大祐 委員

伊藤 昌毅 委員

菅又 久直 委員

深見 嘉明 委員

吉本 明平 委員

【オブザーバー】

武田 英明

三田 智史

【事務局】

平本 健二(経済産業省)

酒井 一樹(経済産業省)

田代 秀一(IPA)

日向 英俊(IPA)

議題：

(1)進捗報告

(2)課題と今後の対応について

(3)連絡事項

配布資料：

- (1)【資料 0】 議事次第
- (2)【資料 0-1】 委員名簿
- (3)【資料 0-2】 席次表
- (4)【資料 1】 利用促進 WG（第二回）事務局報告
- (5)【参考資料 1】 普及戦略 TF の議論

議事概要：

## 1. 進捗報告

【資料 1】「利用促進 WG（第二回）事務局報告」に基づき、第一回WGで課題とされた事項についての対応状況と第一回WG以降に組成された各タスクフォース（以下、TF）の活動状況について報告が行われた。

<主なご意見>

- 議題毎に TF として組織化する必要は無いのではないか？
- WGは実質的な作業は難しい為、TF で実質的な作業を行いその結果をWGへ報告する形態となっている。
- このWGは、TF を上位からの視点で、TF での議論の相互調整や相乗効果を上げるのが目的。WG での議論を TF に返したり、委員会に上げたり、中継機関としての役割としての価値を出せば良い。
- TF というと大きなものを感じるが ML(メーリングリスト)+ $\alpha$  くらいの認識で、TF で実務的に取組むのは機動的で良い。
- 去年までの体制と建付けを替えたが、それに関する議論が不十分だった事が反省点。

## 2. 課題と今後の対応について

【参考資料 1】「普及戦略 TF の議論」に基づき IMI の普及戦略や中期ロードマップについて説明が行われ、内容について議論が行われた。

<主なご意見>

- 普及戦略自体が内向きに見えるのでもう少しオープンな取組みとして見せたい。
- 普及を考えた時、“整備の普及”と“仕様の普及”を分けて考えるべき。
- 日本の現場が DX(デジタルトランスフォーメーション)をやっていく為に困らないよう、必要な要件や仕様を現場ベースで検討する必要がある。
- 外に発信する事を考えると、言葉遣いも含め練り直す必要がある。
- 共通語彙を普及するという事は、新しいビジネスが発生する訳ではなく、既存業務を共通語彙で置き換えようということ。共通語彙を入れる事によって、より便

利にデータの運用が可能な仕組みが出来るところがポイント。

- 「自由にデータを使える」より「データの連携をスムーズに行う仕組みを提供する」というメッセージの方が良い。
- METI では「データ連携」というより「高速なビジネス環境」という表現を使っている。
- 現場としては”自由”より”楽”の方がよい。オープンデータは面倒という認識が先行するので、「手間が省ける」とか、「楽になる」等のニュアンスにつながる文言を考える必要がある。
- メッセージを考えるのも大事だが、それと並行して報告が義務化されている分野に、いかに早く IMI を導入していくか取り組む必要がある。
- 「データでつながる社会」はどうか？  
→ このニュアンス(「データでつながる社会」)で案を作り、リファインする。

【資料1】「利用促進 WG（第二回）事務局報告」に記載されている、普及戦略の進捗状況モニタリングと今後の TF 推進に関して議論が行われた。

<主なご意見>

- 年度末に TF の戦略、戦術に対する進捗と結果と課題を確認した上、次の年度はどう組み替えるかを議論する場が必要。
- TF は普通、報告書やガイドラインがそれぞれ出てくると思うが、それと共に KPI も作る必要がある。政府と自治体については IPA が行っている自治体調査の結果をうまく使うべき。
- APPLIC との連携についての TF はまだ設置されていない。地域情報プラットフォームと IMI がコラボレーション出来るかどうかは検討が必要。
- 一回は地域情報プラットフォームの専門家と対面で話をしてほしい。また、推奨データセットの検討方法はユーザー支援 TF が検討してほしい。
- 参考資料 1 の戦略ペーパーについて今回の議論を踏まえたリバイズ版を事務局で作成し、WEB 上でシェアし、コメントを入れたものをまたリバイズし、次回の WG で仕上げたい。
- 本日の議論の中で各 TF に対する色々な意見を、各 TF に共有して頂きたい。
- ドメイン語彙の提案から決定するまでのプロセスを議論する必要がある事を推進委員会への報告の中に入れる必要がある。

### 3. 合意事項

(ア) 事務局がリバイズした普及戦略の資料を基に、ML にて議論し IMI 普及戦略を仕上げる。

(イ) APPLIC の地域情報プラットフォームの担当者と IMI のコラボレーションの可能性について

意見交換を行う。

(ウ) 推奨データセットの検討方法はユーザー支援 TF にて検討する。

(エ) ドメイン語彙の提案から決定までの一連のプロセスを議論する必要がある事を推進委員会へ報告する。

#### 4. その他

(ア) 参考資料 1 の最後の 2 ページを事務局でリバイズし ML へ展開する。

(イ) 議事録・議事要旨を委員へ展開する。

(ウ) 次回の利用促進 WG は 2019 年 2 月を予定。